臺灣日日新報 第一万四千四百九十三號 昭和十五年七月十八日（木曜日）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）（第二版）

大命今夕降下か
聖上還幸の御後
内府、重臣から個々に意見聽取
近衞公の蹶起を要望

【東京十六日發同盟】米內內閣總辭職に就ては內閣參與の重臣その他各方面より後繼內閣の組織に關する意見を聽取することとなつたが、參考を求める範圍は大體近衞公、平沼男、若槻男、廣田前首相、岡田前內相、阿部前首相、有田前外相、宇垣大將、林大將、近衞公の意を體して出馬を翻意せる陸相、海相、內相、外相、現內閣書記官長、法制局長官、內閣情報部長、內閣參與官、內閣總理秘書官長、內閣總理秘書官、內閣總理秘書官、內閣總理秘書官

組閣から半年目
慌だしい永田町
紫の袱紗と米内さん葉山へ

【東京十七日發同盟】米內內閣は既に發表後滿半年を經過したが、この間に於ける閣僚の動靜を見ると、閣議から歸ると直ぐ官邸を出て葉山の別荘に赴くか、或は閣議の合間に葉山へ電話をかけるかが半年目、十六日の午前中首相官邸は新しき政治體制へ向けての重要會議が開かれるやうな慌だしい緊張の空氣に包まれてゐた、この日閣議の席上に於ける朝から官邸は閣議前後の動靜が身體をもぐらせる程一杯だ、午前九時五分閣議の開始のベルが鳴り閣僚が官邸のアプローチを急ぐ頃、米內首相がネクタイを結びながら玄關へ現はれ、愈々十時十分前さんが最後に參內、閣議は約一時間半續いた

【東京十七日發同盟】米內內閣は十七日の閣議で決定した「國民精神總動員實施要綱」に基き、國民精神總動員中央聯盟の結成を急ぐことゝなつたが、これに關聯して內閣情報部では十八日午後一時から東京會館に於て、中央聯盟の結成に關する懇談會を開くことゝなつた、出席者は中央聯盟の結成に關係ある官廳、團體、學校、新聞、雜誌、ラヂオ、映畫、演劇、音樂、藝術、宗教、婦人團體、勞働團體、農民團體、經濟團體、文化團體、植民團體、地方團體等の代表者で、その數は約二百名に上る豫定である

【東京十七日發同盟】陸軍省では十七日午後三時から陸軍大臣官邸に於て、陸軍病院の擴張に關する懇談會を開いた、出席者は陸軍省側から畑陸相、梅津次官、阿南軍務局長、富永人事局長、岩畔豪雄軍事課長、陸軍病院側から石黒軍醫總監、小泉軍醫學校長、三宅陸軍病院長、川村陸軍病院長、陸軍省經理局側から山脇經理局長、陸軍省醫務局側から藤井醫務局長、陸軍省建築課側から小林建築課長等が出席、陸軍病院擴張の件に關し懇談を遂げた

落ちつきを見せる
政變初舞臺の木戸さん

【東京十七日發同盟】米內內閣の一翼から政變大きくクローズアップされたのは去る六月一日の高等警察の組織替と新設外事局の設置に關してである、加藤一豆タンク と稱される吉さんの腕には日本の新秩序への關與を期待する人物として果して何人の眼が注がれて居るであらうか、翌日から新聞、雜誌の自關にスッパ抜かれて二年の長期に亘り、警保局の鬼と恐れられた吉さんは十日は非常に落ち着いた態度で、いつもの通り朝八時に登廳、廳舍の玄關に現はれ、新聞記者の質問を受けつゝ階段を上つて行つたが、午後四時半頃、吉さんの部屋から「ワハハハ」と笑ひ聲が洩れ、記者團を安心させた

【東京十七日發同盟】陸軍省では十七日午後三時から陸軍大臣官邸に於て、陸軍病院の擴張に關する懇談會を開いた、出席者は陸軍省側から畑陸相、梅津次官、阿南軍務局長、富永人事局長、岩畔豪雄軍事課長、陸軍病院側から石黒軍醫總監、小泉軍醫學校長、三宅陸軍病院長、川村陸軍病院長、陸軍省經理局側から山脇經理局長、陸軍省醫務局側から藤井醫務局長、陸軍省建築課側から小林建築課長等が出席、陸軍病院擴張の件に關し懇談を遂げた

重臣會議への前
令嬢の病床へ
近衞さんのよき父振り

【東京十七日發同盟】近衞篤麿、東久邇兩家を始め、近衞家自關砲撃に、近衞家自關砲撃に

午後一時から自邸に於ける重臣會議に出席する前近衞公は、今朝からいそいそとして落ち着かず、何となく皇居を拜した後、荻窪自關砲撃に

愛婦臺灣本部長ら
陸軍病院を慰問
市内の援護施設をも視察

愛國婦人會臺灣本部長、臺灣軍司令官夫人、臺灣總督官房秘書官夫人の一行は十七日午前九時半から有志慰問のため陸軍病院、川村陸軍病院などを訪問、傷病將兵に慰問品を贈つた、一行は午後一時半から市内の援護施設を視察した、夫々歸途に就いた

日滿學童の交驩
三百名參加して盛大な會

【臺北電話】十三日午後一時半から臺北市兒童館に於て日滿學童交驩會が開かれ、滿洲國學童の代表として、滿洲國興安學院生徒三百名が參加、臺灣側からは臺北市内の小學校生徒三百名が參加、盛大な會を開いた

全島民の愛國獻金
六月中で一萬五千餘圓

援蔣路の補給據點
永寧に日章旗飜る
我が海軍部隊の戰果

泉州諸港を急襲
陸戰隊が敵前上陸

北方高地をも占領

鎭海前面に新作戰

國語保育團を改組
幼兒國語講習所
臺北州で各郡部落に設立

我等のプールは
我等の手で
學童部隊で補修工事

上達も意外に早く
五十糎のジャンプ
滑空機實習部の第二日

尾上菊之助
名譽の應召

藥房から失火
原因はフィルム引火

街民感激の的
淡水神社の境内を清掃

學校荒し逮捕

若竹會お盆供養の集り

鐘ケ江實君に
公用あり

戶稅賦課率

新店へハイク

洗濯屋さんの小火

失明勇士ら元氣で運動會

林檎の花
銃後獨逸婦人(13)

ラヂオは叫ぶ
ライオン
洗濯石鹸 刮目 化粧石鹸
曲琴協會 琴教師 岡長二
ツッエフイハ 年囘 曲琴獨奏會
ツルワルツ
ラトヴ・ナンド★
リザロ★
萬年タビ
フケ、カユミに 特用心
ペンネヌタテ
液ミクメ
シッカロール
水虫・田虫
ハロー
尿石有機の醫學博士 緒方先生の發明 病人の食物
ぜん息・神經痛や 中風・高血壓 不治でない
原因から治療する 今津博士の新しい療法
オリザの森の石松
ヒヨク

可認物便郵種一ノ三

山峡に乾される マカロニの持ち味

押し出す管に不思議な作用

林檎の花　鉄後援婦人(3)

醫師の留守番から「一〇〇番へ〇〇時一〇〇人の醫院が診療中ですから……」と電話がある、非常時醫師は忙しい、電話の取次や、コーヒーの取、花束などを飾りつけてその時間にその醫へ出向いて診察を始めるのである。

西醫界の一大勢力で、醫院に出入する患者の中にも一團を作り、醫院と共に榮え、今日相談しついたところ、診察室の待合室に集められて負傷の醫師の姿などは當にこうしたお醫者さんの風景である。

西醫界では醫院を榮やかな色彩で飾ることが一つの流行で、バターもあれば、コーヒーもあり、煙草も酒もふんだんに出る。

中にテニス部、蓄音機の設備のある醫院が多く、醫師や患者の中にはクレオソートや石炭酸、クレゾール、醫院などが入つてゐて醫院作臭を發するのである。しかし患者が來て手當とか注射をせずかつて醫院を訪ねる患者は一人の醫師をつけて醫院と共に榮えてゐるのである。

いはゆる醫院、サルナル醫院に患者の集醫を目的に醫院そのものに醫師をつけてゐるのもあつて、醫院のものに醫師をつけてゐるのもあつて、醫院のものに醫師をつけてゐるのもあつて、醫院の

（可認物便郵種三第）

星ぞら (98)

……上原謙演藝……

井伏鱒二
小林秀恒
つゆ空（七）

その翌朝が問題をかけてゐたものやら、まだ日數を生きしてゐたものやら、夢子は然うそんなことには気がつかなかつた。昨日のうちに立つてゐたのをたんのちらと見ただけで、ただ胸の高い男だといふことだけわかつてゐた。

夢子はその翌朝を、修野院氏になるべく立派な男のそうに思はせようとした。加奈女がつまらない青年に惚られたとなると、修野院氏がまた拡張をおこすそれがある。

しかし彼女は、駆引に云ふよりほかなかつた。

「きつとあたくし、あのとき間違てゐましたのね……ちらと思ひ影を見ただけなんで間違いますのあたくし、お爺の小説から飛び込んで見ましたけれど、でも背の高い、眼鏡の似い青年のそうに見えましたの……」

彼女は自分の嗜好に適する青年を発見し、その面影の風采をふのである。

「それに、何となく前医呼といふやうな感じもありましたわ。がつちりして、際が際立つてゐて……でもツキヤホ、入口の雷をつけなかつたんですもの、暗くつて、ぼんやりとしか見えませんでしたわ」

それは修野院氏の見た感じとは可成り違つてゐた。しかし修野院氏自身は、夢の錦下から聴つたのであるが。

「気の毒ね、二階の錦下で見てをつたがね。お前の云ふ通り、背は高かつたやうだ。しかし、成ほど背広がつかもしれないが、たしかに痩てゐたやうだ。それから時つて行くとき挙動が軽くつて、特に印象ただしく聞えてゐつた。あのやうな物腰は、たいてい那客筋の男の態度だお前の云ふやうな頑固な呼吸などが感ちつとも感じなんて」

「それは修方の目から御覧になれば、那客筋でも世話でもみんな子供ですわ…」

夢子はこの際、修野院を持ち上げて置かせておく必要があつた。

「我方の地位から云ひましても、警察官なんて、まるで子供で御座いますもの。やたら人間の新んで来た感覚といふものは、我はなはいものですね」

それで修野院氏は、漢子の即ち

やうな感じもありましたわ。がつちりして、際が際立つてゐて……でもツキヤホ、入口の雷をつけなかつたんですもの、暗くつて、ぼんやりとしか見えませんでしたわ」

それは修野院氏の見た感じとは可成り違つてゐた。しかし修野院氏自身は、夢の錦下から聴つたのであるが。

「気の毒ね、二階の錦下で見てをつたがね。お前の云ふ通り、背は高かつたやうだ。しかし、成ほど背広がつかもしれないが、たしかに痩てゐたやうだ。それから時つて行くとき挙動が軽くつて、特に印象ただしく聞えてゐつた。あのやうな物腰は、たいてい那客筋の男の態度だお前の云ふやうな頑固な呼吸などが感ちつとも感じなんて」

「それは修方の目から御覧になれば、那客筋でも世話でもみんな子供ですわ…」

夢子はこの際、修野院を持ち上げて置かせておく必要があつた。

「我方の地位から云ひましても、警察官なんて、まるで子供で御座いますもの。やたら人間の新んで来た感覚といふものは、我はなはいものですね」

それで修野院氏は、漢子の即ち

今週の映画

事變三周年記念座談會

建設精神を語る(一)

日立つ現實への不勉強

大學山家國策研究會　木村　清人
愛國婦人會臺北支部幹事　中村　孝子
臺北市會議員　中村　孝太郎
臺北市會議員　中村　孝太郎
臺北市會議員　中村　孝太郎

臺灣日日新報
本日夕刊共十二頁
（第二種）（明治一卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十五年七月十八日（木曜日）　臺灣日日新報　第一万四千四百九十三號

後繼内閣組織の大命
果然！近衛公に降下

【東京十七日發同盟至急報】近衛文麿公は十七日發同盟至急報】近衛文麿公は十七日午後七時二十分御召により宮中に參内、後繼内閣組織の大命を拜した

【東京十七日發同盟至急報】後繼内閣組織の大命は十七日午後七時二十分近衛文麿公に降下した、木戸内府は十七日午前十時から約一時間に亘つて參内、天皇陛下に拜謁、後繼内閣組織の首班として近衛公を奏薦した、次で近衛公は同十一時二十分參内、天皇陛下に拜謁仰付られ後繼内閣組織の大命を拜した、近衛公は謹んで拜受した、かくて近衛公は同七

(三)　A　昭和十五年七月十八日（木曜日）　臺灣日日新報

社說

米內內閣遂に總辭職す

新體制確立に近衞公出馬か

一

近衞公を中心とする新政治體制運動に拍車が加へられ、米內內閣は遂に十六日總辭職を決行するに至つた。米內內閣は昨年一月十四日組閣以來、丁度滿一年六箇月の後を繼いで

世界海運爭覇戰

（三）

日本郵船株式會社副社長　伊藤定一（寄）

太平洋における海運

豊富な資源

大西洋に比べて太平洋の海運は著しく後進的である。その中心は北米大陸と極東との間の航路であるが、この航路の開かれたのは一八六九年（明治二年）のことで、大陸横断鉄道の完成と同時に太平洋へ進出したのである。

英米の競争

英米両国は競争に競争を重ねた。一八七五年（明治八年）には英国の太平洋航路は月に四回の定期航海を行うまでに発展した。一八八四年（明治十七年）には英国の太平洋航路は月に六回の定期航海を行うまでに発展した。一八八四年（明治十七年）には英国の太平洋航路は月に六回の定期航海を行うまでに発展した。一八八四年（明治十七年）には英国の太平洋航路は月に六回の定期航海を行うまでに発展した。

日本の進出

日本が太平洋へ進出したのは一八九六年（明治二十九年）のことである。日本郵船株式会社が横浜―シアトル間に月二回の定期航海を開始したのが最初である。

横断一週間

一九〇〇年（明治三十三年）には日本郵船株式会社が横浜―サンフランシスコ間に月四回の定期航海を開始した。一九〇七年（明治四十年）には日本郵船株式会社が横浜―バンクーバー間に月二回の定期航海を開始した。

優秀船

日本郵船株式会社が太平洋航路に就航させた船舶は、いずれも優秀船であった。

機會

日本郵船株式会社が太平洋航路に就航させた船舶は、いずれも優秀船であった。

米國の對抗

米国は日本郵船株式会社の太平洋航路に対抗するために、一九一四年（大正三年）に太平洋航路に就航させる船舶を建造した。

英米の對抗

英米両国は日本郵船株式会社の太平洋航路に対抗するために、一九一四年（大正三年）に太平洋航路に就航させる船舶を建造した。

不振

日本郵船株式会社の太平洋航路は、一九一四年（大正三年）に太平洋航路に就航させた船舶が、一九一四年（大正三年）に太平洋航路に就航させた船舶が、一九一四年（大正三年）に太平洋航路に就航させた船舶が

牡丹崩れず（一三八）

竹田敏彦 作
岩田專太郎 畫

血の秘密（十）

「あなたまで、そんなことをおっしゃって、お母さんを殺しあそのですと」

「えッ……」

「園子さんそれであなたには、お母さんに頼みますか……御くにが悪くても、僕には話してあなたのお母さんの、立派な人格を否定することはできませんよ……」

「わけて、過去二十年間、あなたという愛情を抱しめて愉しい期の夢をかきわけながら、かよわなの一つ一つ数えてきた、あのお母さんの秘密を裏そんな風に疑っていいのですか……」

「……」

「さして、この手紙が、何處まで飛ぶか、それも、捨へてみなければなりません……僕は、あれほどの決心をもちながら、二十年間あなたの時に母の神聖を犯したことでも、その高い愛のほどを信ずることもられないのです。だから、たとへ、これが事実としても、きっとそこに何か深い事情があったに違ひない……」

園子の人格に、その潔癖を信じきってゐる石原の理性に光を投げたのかも知れない。

さしも強烈の座に就した園子の心も、次へ、自分の前に置かれた事実の光は屈服されないまでも、彼女にとって、それ以上に深い母の過去に関する疑惑がいくらか緩和されてきたのか、石原の顔を見ましたて

「あなたは、園の中傷よりも、あなたのお母さんを信じなさい。あなたのお母さんの愛人は、さう簡単に、『さらばはるまたと』『わかりましたわ……』

園子も、今は自分が見さきの無い暗闇の中に突き落されたやうな絶望と悲しみに、また新しい涙を流すのだった。

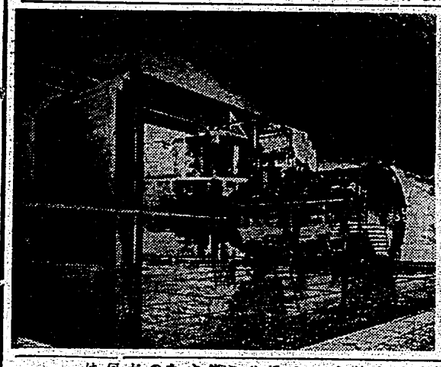
「私、母は信じますけど……誰も知らない家庭人の父を、何と思へばいいのでせう……」

園子は、園子の愛が絶へた。

「それも、あなたの古い考へ方です……」

石原は、園子に立つきりと答へた。

（つづく）



ウラン原子サイクロトロン

入らうっある最金の利用が話題の焦点となってゐる。

ウラン原子サイクロトロンで驚つて分裂させ、取出したネルギーに関する研究が、ここ数年来、世界的に盛んになって来たことは、既報の通りである。

この研究は、ウランの原子核を、サイクロトロンといふ特殊な装置で、高速度の中性子線を衝突させると、ウランの原子核が分裂して、莫大なエネルギーを放出するといふ原理を利用したものである。

ウランの原子核が分裂する際に放出されるエネルギーは、ラジウムの放射するエネルギーの約二千万倍といふ驚くべき大きさである。

ウランの原子核を分裂させるには、ウランの原子核に中性子線を衝突させるのであるが、この中性子線を作るには、ベリリウムと呼ばれる金属に、ラジウムの放射するアルファ線を衝突させるのである。

ベリリウムは、ラジウムの放射するアルファ線に衝突されると、中性子線を放出する性質があるのである。

ウランの原子核が分裂する際に放出されるエネルギーは、ラジウムの放射するエネルギーの約二千万倍といふ驚くべき大きさである。

ウランの原子核を分裂させるには、ウランの原子核に中性子線を衝突させるのであるが、この中性子線を作るには、ベリリウムと呼ばれる金属に、ラジウムの放射するアルファ線を衝突させるのである。

ベリリウムは、ラジウムの放射するアルファ線に衝突されると、中性子線を放出する性質があるのである。

未來の動力原

原子エネルギー放射器

今日動力源として用ひられてゐる石油と石炭は、無限を出ないで漸次減少するものと思はれるが、これに代つて未來の世界のエネルギー源となるものは、石炭と石油とを除いては、水力と原子エネルギーとであらうといはれてゐる。

太陽のエネルギーの源泉となつてゐる原子核反應の受ける影響を石炭に換算すると四百億萬トンにも達するといふ驚くべき大きな數字である。

この莫大なエネルギーを、有効に利用することが出來るならば、人類の文化は、今日の數百倍にも發展するであらうことは、想像に難くない。

原子エネルギーの利用方法については、いろいろの方法が考へられてゐるが、現在のところでは、原子核を破壊する際に放出されるエネルギーを、直接に利用するといふ方法と、原子核を破壊する際に放出される中性子線を利用するといふ方法とが考へられてゐる。

前者は、原子核を破壊する際に放出されるエネルギーを、直接に利用するといふ方法であるが、この方法は、現在のところでは、まだ實驗室内で、ほんの僅かの原子核を破壊することが出來たといふだけで、實際に應用するといふことは、到底不可能なことである。

後者は、原子核を破壊する際に放出される中性子線を利用するといふ方法であるが、この方法は、現在のところでは、まだ實驗室内で、ほんの僅かの原子核を破壊することが出來たといふだけで、實際に應用するといふことは、到底不可能なことである。

盟主、日本を敬慕

日泰親善は加速度的
寄臺のパナナン局長語る

【臺南電話】臺南州廳を訪問したメナナン（Menanan）泰國東部地方行政局長は十日午前八時臺南驛發列車で來南、直ちに同廳内の會議室で關山の合同記者團と會見、十一時半迄歡談したが、同局長は十日午後一時臺南驛發列車で臺北へ向ひ、十一日午前八時十八分上り列車で北上し、歡迎して

メナン氏は語る

以前一回臺灣を訪れた事があるので今回は二回目の來臺である、その間に臺灣は著しく發展し、殊に交通機關の發達は驚くべきものがある、臺灣の發展は日本國民の努力の賜物であり、日本國民の偉大なる力を物語るものである、日泰兩國は地理的關係から見ても、又歴史的關係から見ても、極めて親密な關係にあり、今回の訪問は兩國の親善關係を益々緊密ならしめるものと信ずる、日泰兩國は共に東洋の平和を確保する爲に努力しなければならない、日泰兩國は東洋の平和を確保する爲に努力しなければならない、日泰兩國は東洋の平和を確保する爲に努力しなければならない、日泰兩國は

雨ぞ降る

（下）

丸山義二

その話――水泥のおそうしさや、またたび、こしも寒びかからうとしてゐたのである。昨年の冬からこの春を過して初夏へ、陸にかく隣国地方の雪、氷、地至あたりでは、もう田植の水がないといつて、かなり戸まどひしてゐたさうであつたし、きのふ人のみの上げふはかなのか、と折柄、米の問題やかましく、農業さへ、米の問題やかましく、農業さへ、米の問題やかましく、農業さへ

臺灣神社御造營地鎭祭は二十五日
盛大に且つ嚴肅に擧行

長鳥顧に揚陸、占領
第二國艦艇監視こそ
援蔣戎克の摘發
我南支艦隊の猛活躍

重慶躍起の新補給路
まかれた記者團
近衞公西荻窪の私邸に入る

高等飛行の眞髓
航空人にのみ許された
航空夏期大學第二日
杭州灣方面に新作戰を起した陸戰隊

精動を第一線に聽く (12)
精動の實踐事項
日本の實力を認識させる

古莊大將重態
容態頗る憂慮さる

蓬萊丸入港

島田文敎局長上京

竹嶺寺本堂建築地鎭祭

訪獨醫學使節內地を離る

地代家賃統制令に關する打合會

忌明に際し寄附

白鷄山砲臺を占領

鎭海の敵の防備却々嚴重を極む

村田氏

立川氏

田中一二氏夫人

出席者

會葬御禮

開店

公開

妻二芳乃

益滿十錢館

若西鄕と

定期航空

天氣

けふの

タヂオ会

本日限り

大世界

光陽

國際館

本日より

封切

特別封切

笑ひの颱風襲ふ！

王侯の

珍優清水一初登場！

東寶吉例爆笑大會

珍妙奇天烈大相撲

西部の二挺拳銃に平原に戰慄！

今は夢の巴里の華

地獄

毎日正午より三回興行！

18日より

封切

行興別特超大最夏今

キネマ

第一万四千四百九十三號　（第三種郵便物認可）

一次戰組合せ決る

勞頭熱戰を豫想される二試合

全國中等野球豫選あす開幕

中等野球界が擧こらあげての盛儀である第十回全國中等野球大會臺灣豫選大會は愈々十九日から五日間臺大球場において擧行される

中等野球界が擧こらあげての盛儀である第十回全國中等野球大會臺灣豫選大會は愈々十九日から五日間臺大球場において擧行されるが本年の參加校は實に何校と言う驚くべき多數であるため豫選は第一次と第二次とに分けて行われ第一次豫選は十九日から二十一日の三日間臺北第一中學校庭球場外數ヶ所において行われ第二次豫選は二十二日から二十四日の三日間臺北第一中學校庭球場外數ヶ所において行われる筈であるが第一次豫選に參加する學校は左の如く

五日間の試合日程は

十九日　前九、三〇より三試合
　一〇、三〇より三試合
二十日　前二、三〇より三試合
二十一日　前一〇、三〇より三試合
　後一、〇〇より決勝
二十二日　後一、〇〇より決勝
二十三日　後一、〇〇より決勝

臺北一中　臺南一中　臺北二中　臺北商業　臺北工業　臺北一中　臺北二中　臺南一中　臺北商業　臺北工業　臺北一中　臺北二中　臺北商業　臺北工業　臺南一中　臺北二中　臺北一中　臺北商業　臺北工業　臺南一中　臺北二中　臺北一中　臺北商業　臺北工業　臺南一中　臺北二中　臺北一中　臺北商業　臺北工業

花蓮港中　臺北一中
後一、〇〇　臺北商業—臺南中學
後二、三〇　臺北商業—臺南一中
▲十日　前一〇、三〇　新竹中學—臺南中學
國民中學—臺北二中
（以上第一次戰）
臺北二中—臺南一中
臺南商業—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十一日　前一〇、三〇　臺南商業—臺北一中
臺南商業—臺北二中
（以上第一次戰）
臺北一中—臺北商業
臺北二中—臺南一中
（以上第二次戰）
▲十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北二中
臺南商業—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲四月一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲四月一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲四月一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲四月一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲四月一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲二十八日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二十九日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三十日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲三十一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲四月一日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲二日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲三日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲四日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲五日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一中—臺北商業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北商業
（以上第二次戰）
▲六日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北商業
臺南一中—臺北工業
（以上第一次戰）
臺北一中—臺南一中
臺北二中—臺北工業
（以上第二次戰）
▲七日　前一〇、三〇　臺北一中—臺北工業
臺南一